

令和4年4月1日

愛国学園保育専門学校
校長 船田 鈴子 殿

愛国学園保育専門学校
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会報告

令和3年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ①野崎 郁弘 (パブリックコンサルタント株式会社専務取締役 元会計検査院官房審議官 元青山学院大学客員教授)
- ② 谷 聖司 (上一色幼稚園園長)
- ③森田 育栄 (卒業生 なでしこ保育園園長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

コロナ感染症対策もあり、評価委員に事前に自己評価報告書を配布し、委員の事前調査と質問項目の送付をお願いし、その質問項目も基に令和3年3月16日に聞き取り調査を実施した。聞き取り調査実施後に委員による評価報告についての持ち回り開催を実施した。

3 学校関係者委員会報告 別紙のとおり

別紙

I 重点目標について

1 重点目標について

令和3年度においては、昨年度より引き続きとなる新型コロナウイルス感染症に伴う影響はあったものの重点目標に掲げた事項について、各目標に沿った対策を着実に実施しており、目標と計画の達成状況は的確に示され、適切に評価されている。このような取組は今後も継続的に実施していただきたい。

なお、令和3年度に重点目標の前提となる教育目標に「5 深い学びとなるアクティブ・ラーニングを取り入れ学ぼうとする姿勢を養うことに重点を置く」が追加されている。学校側の説明によると方向性としては以前から指向している目標であり、自己評価を行っていく過程で追加して記述することが適切であると判断したとのことである。

各重点目標に関しての意見は、次のとおりである。

重点目標1の教育、研究における事項について、計画に従い適切に実施されていることは学校側の説明で理解できたが、個別の各事項の目標に対する達成状況と取り組むべき課題について、その対応関係がより明確になるよう引き続き構成、記述を検討してもらいたい。

重点目標2の学生の募集活動に関する計画について、新型コロナウイルス感染症に伴う影響により説明会の中止、オープンキャンパスの参加状況など相当な影響を受けていることはやむを得ないものと認められる。そのような中で課題をしっかりと認識し、AO入試を導入するなど積極的な対応に努めている姿勢は高く評価できる。引き続き厳しい状況ではあるが、幅広い志望層の掘り起こしを図るなど定員の確保に向けた努力を継続されたい。

重点目標3のその他の事項について、昨年度に行事予定の記述が充実し、改善が図られている。新型コロナウイルス感染症に伴う影響により、実施できなかった項目が多くなっていることが理解できるなど自己評価報告としては適切な記述となっている。

II 各評価項目について

基準1 教育理念・目的・育成人材像

教育理念である「親切・正直」「女子の職業教育」は明確にされており、それに基づく方針や目標設定があり、目標達成のための具体的な取り組みが行われている。一方、取り組みの中で見つかった課題への解決方法は、やや具体性に欠けるところがある。今後、より具体的な対策案を立案・実施していくことを期待する。

基準2 学校運営

運営方針、事業計画が明文化され、全教職員へ周知徹底されており、歴史ある学校法人として組織的運営が適切に行われている。また、意思決定システムについては明確に確立されている。

上記の運営状況を前提として人事・給与制度については、良質な教員を確保するための処遇改善を期待する。情報システムについては、費用対効果に配慮しつつ、社会全体として ICT 環境整備が進んでいる中で一層の充実を図るよう期待する。

基準3 教育活動

理念・目的・育成人材像に沿って教育課程の編成が行われ、計画的な教育活動が行われている。また、卒業時に幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格の二つの資格を取得することを踏まえ、業界のニーズに沿った教育活動を行っていることが窺える。

また、新型コロナウイルス感染症の感染リスクを抑える教育活動への対策について検討し授業を継続できたことは高く評価できる。

昨年度の評価において、検討すべき点として挙げた ICT の教育環境の体制整備についても具体的な説明を記述している。試験的ではあるが、オンライン授業を実施したことは評価できる。なお、基本理念としての対面授業の実施は、それ自体高く評価されるべきものと考えられる。

基準4 学修成果

卒業生全員が資格・免許を取得し、就職率は、100%となっているなどの状況は、良好な学修成果の帰結として大いに評価できる。

また、卒業生の社会的評価（卒業生の就職先の評判など）を整理、分析して、その結果を教育活動の改善に取り組むとする姿勢も意欲的であり、大いに評価できる。

令和3年度では、アンケート結果を詳細に分析しており、意欲的な取り組みが一層進んでいる。

基準5 学生支援

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、学生の健康管理は重要な課題となっているが、このことを十分に認識して適切な対策を整えていることは評価できる。本校は、直接の授業を重視する理念を継続していることから、今後とも万全の体制を継続していただきたい。

新型コロナウイルス感染症に伴う影響により、課外活動としてのボランティア活動に制約が生じているのはやむを得ないが、本校のボランティア活動は高い評価を受けているとのことなので、状況が改善すれば引き続き実施されることを期待する。

退学率の低減に関し、きめ細かく可能な限りの支援体制を強化している努力は評価するが、さらに一層の工夫を期待する。また、入学後に進路上のミスマッチに気づく学生に対する支援の在り方について、引き続き検討されたい。

基準6 教育環境

教育環境は、施設面・設備面については、良く整備されている。施設等のメンテナンス体制も整備されており。施設・設備等は有効に機能している。なお、インターンシップ制も現状では実施が難しいことは理解するが、最近の社会の動きを見ると将来的に検討してもよいかもしれない。

基準7 学生の募集と受入れ

ホームページを充実させるなど学生募集活動は適切に実施し、努力していることは確認できたが、ここ数年、定員割れが続いていることは事実なので、その原因を分析し、課題を抽出して改善に取り組むことは大事であると思料される。引き続き努力されることを期待する。学納金の額は妥当と思われる。

基準8 財務

学園全体の財務基盤は安定している。ただし、保育専門学校単体での収支はマイナスとのことなので、経常費補助金のある大学等と異なり、学生の納付金が収入の主体である本学校の特性からみても学生の確保は喫緊の課題だと思料される。収入のみならず、費用の見直しにも言及している学校側の課題の把握、解決に向けた努力の姿勢は高く評価する。

基準9 法令等の遵守

常に、関係法令に関する最新の情報をチェックし、それに合わせた校内の諸規則を遵守しつつ、必要な改定を行うなどの取り組みが行われている。また、ホームページを充実し、必要な情報を公開するなど状況に即した対応が図られている。

引き続き、法令等を遵守し、適正な学校運営に取り組んでいただきたい。

基準10 社会貢献・地域貢献

新型コロナウイルス感染症に伴う影響を受け、制約が多い中ではあるが、学校の教育的資源を通して、社会貢献、地域貢献に努力している。国際交流は、学校の性格上無理があるのは理解できる。有意義な活動を続けていることが周知されれば学生募集にも良い影響があると思料されるので、ホームページでその取組を紹介するなど、対外的な認知に関し、一層の工夫に務めることを期待する。

以上